

GREENPEACE

グリーンピース・ジャパン



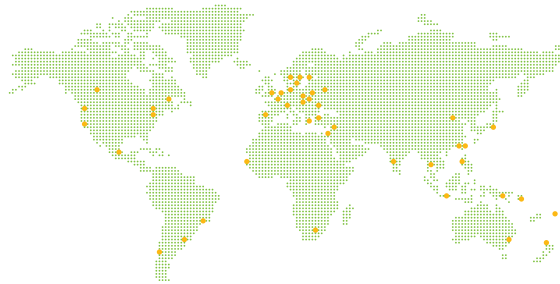
グリーンピースとは

グリーンピースは、環境保護(=グリーン)と平和(=ピース)を願う市民の立場で活動する国際環境NGOです。
その活動は、世界で300万の個人のご寄付により支えられています。

世界55カ所の拠点を活かしたグローバルな活動

グリーンピースは、地球規模の環境破壊を止めるため、世界55以上の国と地域で活動する国際環境NGO(非政府組織)です。本部はオランダ・アムステルダムにあり、政府や企業から資金援助を受けず、独立した活動を世界各国で2,500人以上のスタッフが展開しています。

国連では国際的なNGOに与えられる最も高い地位の1つである「総合協議資格」が認められており、国連での各会議にオブザーバーの資格で出席し、環境問題の専門家として各国政府へのアドバイスや提言を行っています。



- グリーンピース・インターナショナル(本部 オランダ・アムステルダム) リーガル(法律)ユニット(ベルギー・ブリュッセル)
- グリーンピース・オランダ
- グリーンピース・ベルギー
- グリーンピース・ルクセンブルグ
- グリーンピースUK
- グリーンピース・フランス
- グリーンピース・ドイツ
- グリーンピース・スイス
- グリーンピース・北欧
デンマーク/ノルウェー
フィンランド/スウェーデン
- グリーンピース・ギリシャ
- グリーンピース・イタリア
- グリーンピース・スペイン
- グリーンピース・チェコ
- グリーンピース・ロシア
- グリーンピース・中欧/東欧
オーストリア/ブルガリア/クロアチア
ハンガリー/ポーランド/ルーマニア
スロヴァキア/スロヴェニア
- グリーンピース・地中海
イスラエル/レバノン/トルコ
- グリーンピース・アフリカ
- グリーンピース・メキシコ
- グリーンピースUSA
- グリーンピース・ブラジル
- グリーンピース・カナダ
- グリーンピース・アンディーノ
アルゼンチン/チリ
- グリーンピース・東南アジア
インドネシア/フィリピン/タイ
- グリーンピース・インド
- グリーンピース・ジャパン
- グリーンピース・東アジア
北京/香港/台北/ソウル
- グリーンピース・オーストラリア・パシフィック
オーストラリア/フィジー
バブア・ニューギニア/ソロモン諸島
- グリーンピース・ニュージーランド

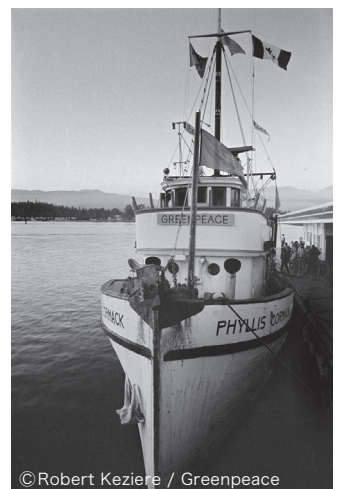
アメリカの核実験の反対運動から、グリーンピースの誕生へ

グリーンピースの誕生は、1971年アメリカの核実験を止めるために数人の活動家がカナダ・バンクーバーでロックコンサートを開いて資金を集め、一隻の船でアムチトカ島へ向かい抗議活動を行ったことがきっかけです。

その後各国に拠点を拡大し、現在3隻の船を保有し、国内外で連携し活動しています。



船の資金集めのコンサートにはジョニ・ミッチェル、ジェームス・テイラーら有名歌手も出演



数人の活動家が核実験場へ向かった

1970~80年代

グローバルな問題に向けての活動を開始

- ・核実験反対
- ・放射性廃棄物の海洋投棄
- ・商業捕鯨の禁止
- ・南極保護区化

1990年代

有害物質禁止や地球温暖化に向けての活動を展開

- ・玩具や電化製品への有害物質禁止
- ・温室効果ガス対策のノンフロン冷蔵庫開発

2000年代

より生活に密接なテーマへも拡大

- ・自然エネルギーへの転換
- ・森林保護
- ・遺伝子組み換え食品の禁止
- ・化学農薬など工業的な農業からの転換
- ・大規模漁業からの転換



世界のグリーンピースの成果

グリーンピースは誕生してから48年の間、世界各国の市民と共に環境問題の解決に向けた活動を行い、数々の成果を遂げてきました。

48年間、世界各国で数々の活動成果を遂げる

グリーンピースは、時代の変化や国・地域の状況に応じて緊急性・重要性の高い環境問題に対し、専門的な知識や、厳しい意見を建設的に述べて問題解決に導く「創造的対立 (Creative Confrontation)」に基づいたキャンペーン活動を行い、成果を上げています。グリーンピースが考える“成果”とは、環境問題を悪化させる原因となる活動を止めることや、改善に向けてより良い行動を選択することを指します。

主な活動成果事例

<p>森林破壊撲滅を 約束 (2018年)</p>	<p>世界中の130万人の声を受けて、パーム油世界最大手のウィルマー・インターナショナルが、パーム油の供給元を特定し監視する具体的な行動計画を発表。</p>	<p>© Bjorn Vaughn / BOSF / Greenpeace</p>
<p>漁業環境の 改善を合意 (2017年)</p>	<p>世界最大ツナ缶メーカー タイ・ユニオン・グループが海の生態系と労働者の人権保護のための業務改善をグリーンピースと合意。2年間にわたり、世界中の70万人もの人たちと一緒に訴え続けた市民の勝利となった。</p>	<p>© Wasorn Wanichakorn / Greenpeace</p>
<p>北極圏の 石油開発を停止 (2015年)</p>	<p>欧州最大の石油会社ロイヤル・ダッチ・シェル社が、アラスカ沖の北極海域での石油・ガス探査を停止することを発表。2012年から世界中で700万人以上の市民が声をあげ続けてきた結果。</p>	<p>© Jiri Rezac / Greenpeace</p>
<p>ノンフロン 冷蔵庫を 開発・製品化 (1997年)</p>	<p>ノンフロン冷蔵庫を1992年に、グリーンピースがドイツの企業に委託して開発。各国の電器メーカーに技術を提供し、製品化をすすめた功績が認められ、国連オゾン層保護賞を受賞。</p>	<p>© Jim Hodson / Greenpeace</p>
<p>核実験を 中止 (1992年)</p>	<p>グリーンピースの船「虹の戦士号」による実験水域での抗議を受けて、フランスはモルロア環礁での核実験を中止。同域で180回も繰り返された核実験は、美しい珊瑚礁を破壊し島民の生活を脅かしていた。</p>	<p>© Randi Baird / Greenpeace</p>



グリーンピース・ジャパンとは

グリーンピース・ジャパンは、日本事務所として1989年に誕生しました。世界各国のグリーンピースと連携し、日本での活動を展開しています。

世界各国とつながる、日本を代表する唯一の拠点

グリーンピース・ジャパンは、世界各国のグリーンピース同様、地球規模の環境破壊を止めることを目的とし、非暴力行動・政治的独立・財政的独立を方針として活動しています。日本事務所として取り組むべき緊急性・重要性の高い環境問題に対し、そのテーマの専門知識を持つスタッフが、政府や企業、報道機関や市民などに働きかけています。

名 称	一般社団法人 グリーンピース・ジャパン (2002年より法人化 ※通称:国際環境NGO グリーンピース・ジャパン)
設立年月	1989年4月
所在地	〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル2F
代表者	代表理事 / 青木陽子、寺中誠
会員数	7,228人(国内 ※2019年4月時点)
職員数	有給職員 37名(うち、時間給制職員14名)(国内)
活動対象範囲	日本国内、および全世界
活動対象分野	地球環境保護 (気候変動 / エネルギー、海洋生態系保護、農業問題、有害物質問題、森林問題等)
具体的な活動手法	<ul style="list-style-type: none"> ・環境破壊の実態を科学的に調査・分析 ・環境破壊の現場での抗議活動 ・環境問題に関する国際条約の交渉過程を監視・提言 ・政府や企業などへの提案・要請 ・市民や報道機関へ情報提供や行動の呼びかけ

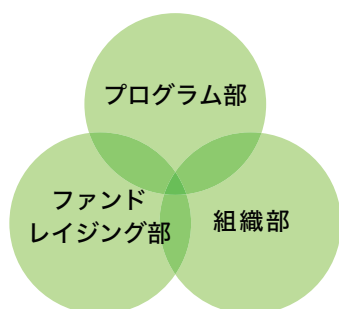
設立初期の大きな成果 — 放射性廃棄物の日本海投棄を暴露 —

1989年にグリーンピース・ジャパンを設立し、最初の大きな活動として、1993年にロシアが放射性廃棄物を日本海で海洋投棄している現場を明らかにしました。

その結果、国際世論が巻き起こり、ロシアは投棄を中止。同年、ロンドン条約締結国会議で海洋投棄全面禁止が決議されました。



各分野の専門性を持つスタッフがチームを組む



プログラム部:

キャンペーン活動の企画・運営を担う。

活動内容のメディアへの広報活動、SNSでの情報発信やイベント企画、ボランティア活動の募集など、一般市民が環境活動に参加するきっかけ作りを行う。

ファンドレイジング部:

市民への問題啓発、サポーターの募集・サポーターへの活動報告を行う。

組織部:

人事・経理・総務などを行う。



グリーンピース・ジャパンの成果

グリーンピース・ジャパンは、グリーンピースの日本の拠点として、日本ならではの切り口で環境問題の解決に向けた活動を行い、数々の成果を遂げてきました。

オーガニックコーナーを設置 (2018年)

スーパーに有機の野菜やお米の取り扱い拡大を提案し続けた結果、大手イオンの50%の店舗でオーガニックコーナーの設置が実現し、消費者により身近となった。



© Greenpeace

国連の福島原発事故勧告 (2018年)

福島県から避難中の女性たちの国連スピーチを後押しし、国連人権理事会で福島原発事故関連勧告が採択された。



© La Souris Verte / Greenpeace

有害化学物質全廃を合意 (2013年1月)

アジア最大の衣料品ブランドであるユニクロを展開する株式会社ファーストリテイリングは、全ての有害化学物質の使用・排出を2020年までに全廃すると発表。



放射線調査を独自に実施、避難指示へ (2011年4月)

東京電力福島第一原発事故発生直後、放射線調査を福島県内で独自に実施。その結果をもとに高放射線量地域への避難指示を政府に要請し、その後飯舘村などを含む地域が避難指示に。



© Christian Aslurd / Greenpeace

ペットボトル入りビール発売中止へ (2004年9月)

アサヒビール株式会社が発売予定だったペットボトル入りビールの発売が見直された。「環境にやさしい商品を作る企業であってほしい」という市民の声が反映された。



© Greenpeace

自治体が日本初のゼロ・ウェイスト宣言 (2003年)

ごみを作らない政策を地方自治体に提案してきた結果、徳島県上勝町で日本初のゼロ・ウェイスト宣言が実現。



© Greenpeace

日本初のノンフロン冷蔵庫を発売 (2001年)

松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）が日本で初めてのフロン／代替フロンを使用しないグリーンフリーズ型ノンフロン冷蔵庫の発売を発表。



© Greenpeace

おもちゃの脱塩化ビニルを達成 (1999年)

おもちゃメーカーのバンダイ、タカラトミーなどが製品の脱塩化ビニルを達成。グリーンピースは塩化ビニル製子ども用玩具を分析し、有害物質の使用を指摘。



© Hiroto Kiryu / Greenpeace



Mission — めざしていること

グリーンピース・ジャパンは「地球規模の環境破壊を止める」という目的のもと、随時活動の計画を見直しています。世界各国のグリーンピースのスタッフと意見を交わし、その時代に即した問題解決を目指しています。

めざしていること

グリーンピース・ジャパンは、現在日本を含む世界各国で「脱原発・脱化石燃料」「自然エネルギーの確実な導入」「持続可能な漁業と農業の実現」を最優先に、市民と共に企業や政府に働きかけています。各国が掲げる政策や企業活動の状況を考慮しながら、その国の文化や風習に即した活動を展開しています。

7つの活動指針

グリーンピース・ジャパンは、活動を推進する上で以下の7つの活動指針を大切にしています。

1 創造性あふれる 平和的な方法

新しい切り口を生み出し、創造性あふれる非暴力で平和的な方法で問題に向き合い、社会のあらゆるセクターと協働します。



©Tommaso Galli / Greenpeace

2 独立した 存在

すべての活動は政府や企業からの支援を受けず、個人の方からの寄付で支えられています。これにより、利害関係などの制限を受けることなく自由に活動することができます。

3 科学調査に基づいた 解決策

グリーンピースはイギリスの名門大学の一つであるエクセター大学に独自の研究所を持ち、放射能や有害物質汚染などの分析を行っています。世界の科学者と共に、最新の科学的データを活用しつつ、環境破壊を食い止めるための解決策を示します。



©Vanessa Miles / Greenpeace

4 透明性と多様性

他者の声に耳を傾け、批判や学びの機会を積極的に受け入れ、開放的で透明性あるコミュニケーションを心がけます。スタッフの体制においては、多くの女性が管理職として活躍しています。多様な文化や言語、価値観を尊重しています。

5 目標達成に向けて、 大胆かつ勇気ある行動

成し遂げようとしている変革が実現するその時まで、私たちは大胆かつ勇気ある行動を起こすことを約束します。決してあきらめず、新たな道を模索し続けます。



©Greenpeace

6 世界中のネットワークを活用、 グローバルに行動

環境問題に国境がないように、グリーンピースの活動にも国境はありません。どこで発生しようと、地球規模の環境問題に立ち向かいます。持続的な解決策を生み出すため、世界中の55以上の国と地域にあるネットワークを活用し、グローバルに行動します。

7 世界の300万人のサポーター、 一人ひとりの想い



©Nevio Smajic / Greenpeace

多くの人の想いと共に行動することで、社会にポジティブな変化をもたらします。



各活動テーマ

グリーンピース・ジャパンは、現在主に「脱原発・脱化石燃料」「自然エネルギーの確実な導入」「持続可能な漁業と農業の実現」「脱使い捨てプラスチック」を最優先に活動しています。

エネルギーを変える — 脱原発・脱石炭・自然エネルギーへの転換 —



世界各地で脱原発活動に取り組んできた長年の経験を生かし、2011年東京電力福島第一原発事故直後からこれまで計29回の放射線調査、住民の方への聞き取りを実施・継続しています。国際チームを組み科学的根拠に基づいて、再稼働をしないこと、被害者の人権保護、脱原発への政策転換等を訴えています。

脱石炭（脱化石燃料）の動きが世界中で加速するなか、日本は国内で30基近くの石炭火力発電所の新設計画を持ち、東南アジアやアフリカ等に石炭火力発電の技術輸出を進めています。気候変動への影響はもちろん、大気

汚染や健康被害の観点からも他の市民グループと連携して脱石炭を目指します。

原発、石炭（化石燃料）の代替として、できるだけ省エネを進め、必要なエネルギーは地域の環境や暮らしに影響がない自然エネルギーでまかなうべきだと考えています。100%自然エネルギーの社会のために、グローバルなネットワークを活かした海外先進事例の紹介や企業への働きかけを行っています。

詳しくはこちら URL: enerevo.jp/



食と農を守る — 生態系を生かした農業へ —



生物多様性と私たちの健康を守るため、有機農業や自然農法など、土や生態系の持つ力を活かした農業を推進しています。ネオニコチノイド系農薬の規制や米の着色流規定の見直しなど、オーガニック・無農薬の農産物を現状より増やすことを求める活動を実施しています。

詳しくはこちら URL: www.greenpeace.org/japan/tag/food/



海を守る — 循環型の社会へ —



プラスチック汚染や気候変動などの脅威から豊かな海を守るため、使い捨て社会からの脱却を目指し、国や企業へ提言を行うと共に、市民の声に寄り添い、循環型かつ持続可能な社会実現に向けて行動をしています。具体的には、どこの国にも属さない公海において、2030年までに少なくとも3分の1以上を海洋保護区に指定することを国連の場で進めていくことです。

詳しくはこちら URL: www.greenpeace.org/japan/tag/oceans/



平和を守る — 自由で活発な市民社会を —



緑豊かで平和な世界の実現に関心のある人々がつながり、環境のために行動できる場を作りたい。社会に変化を生み出すためのインターンシップやボランティア活動、人々がつながれるコミュニティ作りを目指しています。

詳しくはこちら URL: www.greenpeace.org/japan/act/volunteer/



スポーツパーソン紹介

グリーンピース・ジャパンのスタッフは総勢37名。

各テーマの専門知識を持ったスタッフがチームを組み、活動を推進しています。

サム・アネスリー 事務局長



イギリス、北アイルランド出身。高校の交換留学で一年間岡山県などに滞在する。英ケンブリッジ大学で日本語を専攻し、三重県皇學館大学にて一年間神道学を学ぶ。2007年より日本を拠点にし、「ピースボート」や「あしなが育英会」の市民団体などで、東日本大震災の被災地支援や、原発などの環境問題、平和教育、そして文化交流に携わる。2018年12月より現職。気候変動などの環境問題解決のために行動する人々の輪を広げることを目指し、他団体との協力や、国内外の連携強化に注力している。趣味は登山やスキューバダイビングなど、日本の美しい自然を堪能すること。

高田 久代 プログラム部長



大学卒業後、ニュージーランドに渡航し、2005年より現地NGOのZero Waste New Zealand Trustで勤務。2010年よりグリーンピース・ジャパンの職員となる。海洋生態系や有害物質、気候変動・エネルギー等の分野の活動の中心メンバーとして活躍。2014年から、グローバル・プロジェクトリーダーとして、自然エネルギー100%の日本を目指す国際プロジェクト「エネレボ」をドイツ、ベルギー、スイス、フランスの各グリーンピース事務所とともに展開。プログラム副部長を経て、2019年より現職。

関根 彩子 食と農業担当/エネルギー担当



1991年よりグリーンピース・ジャパンに参加。オゾン層保護・気候変動問題に関わった後、有害物質による海や陸、生活圏の汚染問題を担当し、2004年に退職。Antarctic and Southern Ocean Coalition (ASOC)、PEW Environment GroupなどのNGOで、南極の海洋生態系保護や、違法漁業のプロジェクトに関わる。2011年、東京電力福島第一原発事故を機にグリーンピースに復帰。生態系に根ざした食と農業を目指すプロジェクトを担当し、2019年から気候変動・エネルギーの活動に参加。80年代に、米空母ダイコンデロガ号の沖縄での水爆落下をグリーンピースが情報公開で突き止めたTV報道が、グリーンピースを知り、活動に興味を持ったきっかけ。

ハンナ・ハッコ エネルギー担当



グリーンピース・北欧（フィンランド事務所）から出向し、2018年よりグリーンピース・ジャパンに。石炭火力発電などの問題に従事。2013年より4年間、フィンランドのフレンズ・オブ・ジ・アース（FoE）で、気候変動緩和政策や石炭火力発電所廃止に関する活動に注力。自身がリードした活動の主な成果は、2015年の同国議会の気候変動法の採択、同国のハナサーリ石炭火力発電所の閉鎖決定など。フィンランド自然保護協会の環境政策担当として、採掘と持続可能な消費の問題にも関わった。2013年より4年間、タンペレの市議会議員として奉職。タンペレ大学で環境政策と地域研究の修士号を取得。趣味は日本の歴史、文学、居合道。



提供可能な素材

科学的調査に基づいた報告書や、世界の自然環境や市民活動をドキュメントした写真・映像など豊富な素材を提供します。

資料・データ

グリーンピース・ジャパンが発行するプレスリリース、グリーンピース・インターナショナル(本部)が発行する英語のプレスリリース、報告書、年次報告書の最新版などの各資料は、下記の広報チームのページより閲覧・ダウンロードが可能です。

URL: www.greenpeace.org/japan/press-center/



報道関係者の方向けにプレスリリースをメール配信しています。こちらから配信の登録ができます。



写真・映像

グリーンピース・インターナショナル(本部)が運営する写真・映像のアーカイブサイト「グリーンピース・メディア(英語)」は、古くは1960年代から、グリーンピースが世界中で行っている環境保護活動の現場でとらえた素材を掲載しています。北極や南極、アマゾンなどの自然・野生動物などの豊富な素材が閲覧可能です。利用者登録(Register)をすると、条件に応じて写真・映像の利用ができます。

URL: media.greenpeace.org/



グリーンピースのロゴマーク

データのご提供が可能です。
ご希望の場合はお問い合わせください。

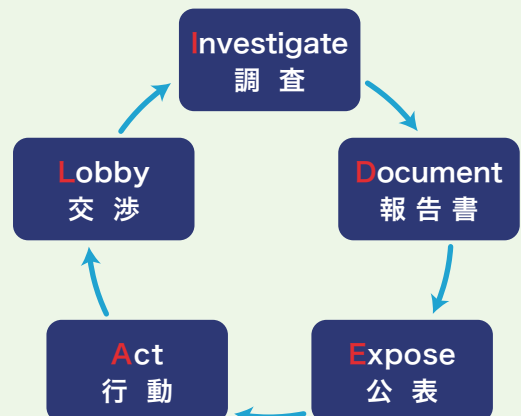


「IDEAL原則」に基づいたグリーンピースの活動について

IDEALとは、グリーンピースが大切にしている行動方法の頭文字をとったものです。

客観的事実や科学的調査に基づいて、環境破壊の現場で何か起こっているかを、報告書や写真・映像を通じて世の中へ公表します。

さらに、多くの市民と共に、創造性あふれる非暴力直接行動によって政府や企業に働きかけ、解決策を示します。





© Hidenori Tanaka / Greenpeace

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル 2F

TEL: 03-5338-9800

FAX: 03-5383-9817

メールアドレス (広報代表): kouhou@greenpeace.org

www.greenpeace.org/japan/



@GreenpeaceJP



グリーンピース・ジャパン



greenpeacejp

2019年4月改定

表紙: グリーンピース・ジャパンのスタッフ集合写真 (2019年2月)
裏表紙: 使用済みの漁網で作られたドレスをまとったダンサーが工業的な漁業に翻弄される命を表現 (2018年7月)